

会 議 録

会議の名称	西東京市図書館協議会 令和7年度第3回定例会
開催日時	令和7年11月14日（金）午後1時45分から3時45分まで
開催場所	田無第二庁舎2階 会議室
出席者	委員：鈴木副会長、吉田委員、箕浦委員 山辺委員、長谷川委員、福士委員 欠席：島会長、湯浅委員、橋本委員 事務局：大庭館長、司城副館長、金本庶務係長
傍聴者	0名
議 題	第1 諸報告 第2 令和6年度図書館事業評価（案）について 第3 その他
会議資料の名称	参考資料 令和6年度事業評価（案） 検討用
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>○図書館長 定刻となりました。定足数に達していますので、只今から、令和7年度西東京市図書館協議会第3回定例会を開催します。3名の委員が欠席です。 本日の会議の資料として、次第を配布しています。 また、参考資料として「参考資料 令和6年度事業評価（案） 検討用」を机にお配りしました。 また、本日の資料以外として、令和6年度事業概要を配布しています。また、ちょうど1年前にまとめられた令和5年度事業評価を配布しています。 過不足はございませんでしょうか。（同意を確認） 以降の進行については、副会長にお願いします。</p> <p>○副会長 会長が体調不良ということで、私が司会をさせていただきます。 次第に沿って議事を進めます。議題1、諸報告について事務局からお願いします。</p> <p>○図書館長 諸報告として1点報告します。 前回の第1回臨時会でお話しました令和8年4月1日付予定の職員採用試験について、ちょうど昨日、採用試験結果が発表されまして、専門職としての図書館司書は、最終合格者2名になりました。本2名の方々が採用辞退されず、本市で働いていただけることを望んでいます。</p>	

諸報告は、以上となります。

○副会長

ありがとうございます。

辞退されず西東京市図書館で働いていただけるよう祈っています。

では、第2の議題「令和6年度図書館事業評価（案）について」に入ります。

会長が体調不良のため、各委員からの事業評価をまとめることができなかったため、私の方でまとめていますが、事情によりメールが読めなかった委員がいて、検討案に意見が入れられなかったのも、その委員からの話を聞きながら含めて進めていきたいと思えます。

今日の参考資料「令和6年度事業評価（案） 検討用」には5名の委員からメールのやり取りにて評価を入れています。その内、各事業評価で5名ともA評価である箇所は、意見を聞けなかった委員の評価を聞き、同じ評価であれば、当該評価を確定できると思えます。3つの事業でA評価とB評価で割れている箇所がありますので、各委員からの意見を揃えて、評価を確定していこうと考えています。ただし、本日中に評価を確定しなくても構わない旨は会議が始まる前に図書館長に確認しています。

○委員

確認したいことがあります。

最終的にいつまでにまとめれば良いのか、量的な目安はあるのか、確認したいです。

○図書館長

事務局からお答えします。

図書館事業評価は、例年、12月の教育委員会で報告していますので、後一週間から10日間程度は大丈夫です。本日、各事業評価としてA、B、C評価を確定していただくとともに、前回の例である令和5年度事業評価のとおり、図書館協議会委員の2次評価欄に記載している文章のように固めていただければと思います。本日の会議中で各委員からの意見出しがある中、重複しないよう取りまとめて、2次評価欄に記載する文面を決めていただく必要があります、1週間から10日間程度でまとめれば大丈夫かと思えます。

○副会長

1週間以内に各委員にメールでまとめた内容を送りますので、これはといった箇所や誤字・脱字などを見ていただき、11月25日に図書館にメールできるようにします。私の方から11月21日以内に各委員に送りますので、時間はあまりありませんが、内容を確認して直ぐに23日までに返信していただくと25日中までに図書館に送信できます。

○図書館長

12月の教育委員会は23日に開きますが、同月は議会があり図書館側の対応に時間を要するので、早めの日程をお伝えしました。ただ、多少は遅れても大丈夫です。

○副会長

では、最初に決めたとおり25日までのスケジュールで各委員には内容確認をお願いします。

今日は、各委員に出していただいた意見と、やはりここはといった箇所は意見をいただき、まとめていければと思います。また、各委員から出された評価が割れている3箇所は評価を合わせていければと思います。

では、最初から「基本方針1 1 資料の収集と保存を充実するために、(1) 将来の図書館利用を見据えた資料を収集し保存します、① 幅広い分野の資料の体系的な収集」については、各委員、皆A評価となっています。各委員から、ここは言っておきたかった点があれば、お声をかけて止めて、お話しください。

手書き評価持参の委員の評価をお願いします。

○委員

A評価です。

○副会長

何か意見ありますでしょうか。

○委員

文末の表現が「ます。」、「である。」と分かれています。が、「ます。」にしますか。

○委員

令和5年度図書館事業評価では、「である。」もあり混在していますが、揃えた方が良いと思います。

○副会長

言い切りが難しい部分もあるので、「ます。」の方が良いので、「ます。」でいきます。

「① 幅広い分野の資料の体系的な収集」について意見がなければ、全委員A評価なので、図書館協議会の評価はA評価とします。

○委員

「① 幅広い分野の資料の体系的な収集」で図書館協議会評価の文章について、「…あえて図書を使って自分の目で調べることの意義・重要性について、周知していただきたい。」となっていますが、「…信頼できる資料を調べ、考える力を育てていくということを、図書館の複合的な取り組みを通して進めてください。」となっていて、どちらかに表現を統一した方が良いと思いました。

○委員

「周知していただきたい。」は丁寧にする。「周知していただきたいと思えます。」のになると思いますが、前の文節で「と思えます。」とあり同一表現が続く

ので、「周知してください。」としてしまうとお願いになってしまい、意味合いとして違う気がします。

○副会長

本来は「周知することを検討してください。」だとは思いますが。

○委員

「周知を希望します。」くらいだとは思いますが。

○委員

最後の「これからも子どもたちの好奇心を刺激し、「知りたい」という欲求に沿って、信頼できる資料を調べ、考える力を育てていくということを、」の後に、「生成A Iにより、容易に情報収集が可能になった社会環境でも、あえて図書を使って自分の目で調べることの意義・重要性について、」を入れ込んでしまっても良いと思います。文脈としては近い意味合いだと思いますので、「生成A Iにより、容易に情報収集が可能になった社会環境でも、」だけでも良いと思います。

○副会長

指摘を踏まえて修正します。

○委員

今の話の文章前にある「夏休みのレファレンス件数149件は大きい。」とありますが、何が大きいのか書いた方が良くと思います。

○委員

「レファレンス件数149件」あることは素晴らしいことなので、「あったことは評価できます。」に変えてください。

○副会長

そのように修正します。他にありますか。

○委員

今の次の文章で「図書館が自分の質問に答えてくれるという実体験は、子どもに大きな力になると思います。」とありますが、「と思います。」の表現を使い出すと全ての文面に付けられるので、表現としてある程度言い切ることも必要だと思います。たとえば「…大きな力になります。」というようにして、ただし、どこかに1箇所か2箇所「思います。」があっても良いとは思いますが。

○委員

「…大きな力になるでしょう。」くらいの表現でも良いと思います。

○副会長

では、そのように修正します。

次に「基本方針2 すべての市民に活用されるために、(1)誰もが学べる環境の整備を進めます、① 図書館利用が困難な市民に向けたサービスの実施」です。

ここは図書館がB評価で、図書館協議会委員内ではB評価の方、A評価の方に分かれていて、手書き評価持参の委員はA評価ですが、何か意見はありますか。

○委員

課題は残ったとはいえ、常に挑戦し工夫する事業なので、A評価で良いと思います。

○副会長

B評価を私も付けました。以前の図書館協議会でも話題に挙がりましたが、「いろいろな読書コーナー」というタイトルで今後でも取り組んでいくのですか。

○副館長

コーナーのタイトルは変えず、そのままにいくと思います。

○副会長

タイトル自体に「りんごの棚」を使わずに「いろいろな読書コーナー」とするのはわかるのですが、いろいろな読書という表現では、イメージするものが漠然としている感があります。また谷戸図書館は良くなったという意見が他の委員からありましたが、中央図書館では見に行った際、残念ながら「ここだったのか」という状況でした。頑張って取り組んでいこうとする内容とアピールしている現状に差が感じられ、もったいないと思いB評価にしました。今後、継続する取組なので、どのように進めていくのか気になるところです。

「いろいろな読書コーナー」に関して一般の方々に向けたチラシはコーナーに貼ってありますが、書架の横には、いろいろな案内が貼ってあり「いろいろな読書コーナー」へ導くためには、目に入る案内、道筋をつけることも含めて大事なことだと思います。せっきく、案内を作るのであれば、もっと色合いは華やかに、楽しそうな雰囲気を醸し出してほしいと思いました。

○委員

「いろいろな読書コーナー」は、新刊コーナーの棚の後ろで、自然に目に入る場所ではありますが、「いろいろな読書コーナー」の冊子もおいてあります。スペースは若干小さいとはいえませんが、どこまで手を広げるのかによると思います。例えば、宅配は取り組んでいることを示すだけですし、大型本やデイジーは「いろいろな読書コーナー」に並べられていなくても、何に取り組んでいるのか、ある程度、わかるくらいの資料があれば良いと思います。

○副会長

「手に取ってみよう」と一般の利用者の方々が思うのか、どうなのか、だと言えるのではないのでしょうか。調布市や多摩市など他の自治体図書館が設置している「りんごの棚」を思い浮かべてしまい、先進的な自治体は、児童書の部屋の中で一番目に付く箇所に大々的に置いています。

○委員

多摩市中央図書館の「りんごの棚」は、児童書を中心に置いていますが、「いろいろな読書コーナー」は、大活字本や視覚障害となった方への案内などもありますが、全体的にコーナーに割けるスペースが違います。

○副会長

谷戸図書館の状況について、意見をいただいた委員はどう感じましたか。

○委員

谷戸図書館ではLL本コーナーと「いろいろな読書コーナー」とのつながりがなかったと感じました。LL本は今まで新刊コーナーの小さなボックスの中にありましたが、今は専用のLL本コーナーがあって、その下に外国語の絵本があって、その脇にLL本がある旨やデイジーに関するポスターがあり、わかりやすくなっていました。その場所と「いろいろな読書コーナー」とはイコールにはなっていなかったです。また、柳沢図書館では場所自体、気づけませんでした。

○副会長

柳沢図書館は、カウンターの隣に本当に小さなスペースで、何か置いてあるという感じです。取り組んでいると言われたならば、そのとおりののですが、折角取り組むのであれば、「あれは何だろう」と寄せられ、見てもらい、知ってもらえる、使ってもらえる、自分は使わなくても、知人に使ってもらおうと伝える、そのような流れができれば良いと思いました。

ひばりが丘図書館も「いろいろな読書コーナー」を見に行きましたが、やはりスペースは小さかったです。図書館が取組内容として考え、実際に始めて今年度、次年度と広げていっていただきたいと思えますし、あえて「いろいろな読書」と謳っているのだから、いろいろの人がコーナーに寄せられていくような動線を作っていただければ良いと思いました。

○委員

わかりました。A評価ではなく、担当者がB評価としているので、応援の気持ちを込めてB評価で構いません。

○委員

A評価、B評価、C評価の考え方ですが、図書館側は参考指標の数値を元に評価しています。図書館協議会では、参考指標の数値に対して、それ程重きを置かず、具体的な取組で実際に書いてあることを評価して決めて良いのですか。参考指標の数値に対して達していない場合、図書館協議会委員も数値の観点を持たなければいけないということではないのでしょうか。

○副会長

本来は、参考指標の数値を評価する方法としたのであれば、数値で評価することになるとは思いますが、他の取組内容の箇所では評価基準に疑問符が付くところがあ

ります。今年度の令和6年度事業評価以降も同様の評価方法を使うことについては、気になるところではありません。

○委員

自身が評価する際のA評価、B評価、C評価の分かれ目は、基本的には図書館が数値を出しているから、その数値で評価しましたが、具体的な取組で高く評価できることを多く実施しているのであれば、自身の評価に関する文章のところで、評価する旨を記して、B評価をA評価とした箇所があります。その取組は、参考指標の数値が他律的であり、数値目標を達成していなくとも問題ないと判断しましたが、図書館協議会全体としては、どうしたら良いのかと迷っています。

○副会長

今年度、令和7年度の事業評価は、令和8年度に評価すると思いますが、今年度の令和6年度事業評価の基準とは違う形になるという話がありましたが、どのようになるのでしょうか。

○図書館長

評価方法についてですけれども、図書館側の自己評価は、参考指標の数値を元に出しています。図書館協議会委員の皆様についても、基本的には実績の数値で考えていただきたいのですけれども、絶対ではありません。絶対としてしまうと図書館側の自己評価と図書館協議会委員の評価が全く同じになってしまい、委員の方々に意見を聞く意味がなくなってしまいます。図書館側の自己評価を基本にしながら、別の観点から見ていただき、このような意見もあるというように変えていただいて構いません。

○副館長

補足しますと、指標自体の設定の仕方についても評価していただいて構いません。

○副会長

「基本方針2 すべての市民に活用されるために、(1)誰もが学べる環境の整備を進めます、① 図書館利用が困難な市民に向けたサービスの実施」については、図書館協議会の評価は、B評価とします。図書館協議会の評価欄の文章については、意見が重なっているところは、まとめさせていただき、出来上がり次第、早めに送りますので、確認と添削をお願いします。

では、次にいきます。「基本方針2 すべての市民に活用されるために、(1)誰もが学べる環境の整備を進めます、② 多文化理解のためのサービスの実施」ですが、お一人AA評価と絶賛していますが、委員全員A評価です。手書き評価持参の委員もA評価となっていて、意見として「関係部署や地域(NIMIC)との連携状況がわかるとありがたい」と図書館の要望として書いています。他の委員から意見は、一生懸命に取り組んでいることや、楽しい企画があるので、参加できなかった方へも振り返りができるよう残していただくと良いと思います。AAの評価した委員から何かありますか。

○委員

多文化サービスのスタート時から見させていただいていますが、常に次を見ながら、新しいことに取り組んでいることは素晴らしいと思っています。

○副会長

では、次にいきます。「基本方針2 すべての市民に活用されるために、(2)市民の生活課題、地域課題に向けた取り組みを進めます、②学習機会を提供するための講演会・講座の実施」です。全員評価Aでした。委員もA評価で、意見として「事業評価を数値にすることも一つのアイデアだと思いますが、企画内容と回数の検証も加味してみてもどうでしょうか。」がありました。他の委員からも満足度の高いイベントが開催されている点を挙げていて、また、夏休みの自由研究応援企画で実施された「誕生日新聞」は、図書館データベースの使い方を学ぶのにとっても良い取組ですし、小学生にとって新聞を作ること自体が、そもそも新聞をあまり読まない時代になっている中、過去の情報を見るのは面白い試みだと思いましたし、継続を望む委員も多かったです。

図書館協議会の評価はA評価とします。

次にいきます。「基本方針3 西東京市の文化・歴史を次世代に継承するために、(2)西東京市に関する資料と情報を活用し発信します、②西東京市に縁(ゆかり)のある人物情報の収集と活用」です。全員A評価で、手書き評価持参の委員もA評価です。「縁」ゆかりというタイトルで西東京市に縁のある方の情報や資料を残していることは意味があり大事なことだと思います。一点だけ委員の評価文章で若干、表現を抑えた方が良い箇所として「観光資源や特産物に乏しいことから」とあったのですが、実際、言い得ている面はあるとも言えるのですけれども、文章を削っても内容としては、大きく変わらないので、削って文章を整えても構いませんか。

(他委員、同意)

次の図書館がB評価としたところで「基本方針4 未来を担う子どもの読書活動を支援するために、(2)子どもの成長に沿った取り組みを進めます、①乳幼児と保護者の読書活動の推進」に入ります。

ここは委員の評価が分かれているところで、B評価が1名、A評価3名、私は評価しにくいとして、手書き評価持参の委員はB評価で「数値に怯える必要はありません。」とのことでした。

B評価を付けた委員の意見を見ても、B評価という感じではないと思える意見を書いています。私自身が評価しにくいといった理由は、評価基準とその評価が適切なのか疑問であったからです。A評価とした委員も目標は達していないけれども、評価基準がどうなのかという意見もありました。

マタニティーブックスタートは、新しい取組ですが、参集型のイベントで会場に来ていただくのは難しい時期なので、オンラインでの参加を活用する形になっていることは良いと思いました。

ブックスタートに関しては、3、4か月児健診の時に絵本をプレゼントして、おはなし会に参加してくださいなど図書館利用を促していると思いますが、先日視察させていただいた浦安市では、母子手帳の交付時にブックスタートの絵本をプレゼ

ントしていると聞き、少々驚きました。できるかどうかは別にして、母子手帳の交付時に、マタニティブックスタートを紹介するパンフレットのようなものや、子どもと楽しく過ごすためになることをもっと簡素に記したリーフレットやチラシを配るのも取り組んでみてはいかがでしょうかと思いながら意見を書きました。

もう一つ意見として書かせていただいたのは、図書館での小さな子ども向けのおはなし広場では、わらべうたを月に1回は実演しています。図書館職員の方々もおさらいの形で勉強されていて、将来的には児童担当のどの図書館職員も、わらべうたを保護者の方に伝えていけるよう取り組んでいるので、子育て広場や地域子育て支援センターでのお出かけおはなし会でも、その取組が活かされる方向であると良いと思いました。

B評価の意見に赤ちゃんを持つ親への子ども電子図書館の案内も合わせてブックスタートの会場で行うと、親の図書館利用促進につながる旨の内容がありました。気持ちの面ではわかるのですけれども、0、1歳の乳児に対する電子書籍の扱いというのは、まだ定まっておらず、基本的には視力を育てる、身体の動きを育てることも含めて、電子書籍では難しいところはあるので、図書館協議会の評価としては入れにくいと思ったところです。よろしいでしょうか。

(各委員同意)

A評価とするのか、B評価とするのか、いかがでしょうか。

私自身はA評価でも良いと思いました。

○委員

評価指標を絵本配布に対する図書館利用登録者数に設定したことに対して疑問が残る点は意見として記しておいた方が良いと思いました。

○委員

長年図書館の取組をみてきて、例年の事業、取組に安住せずに、すごく工夫されているのは良くわかりますし、少なくともいろいろな工夫が指標を含めて、評価基準として必ずしも妥当だとは思わないのですけれども、取組内容は良いと思います。

○副会長

現状として、図書館のおはなし広場に来ようと思っている方は、圧倒的に育休中のお母さんと子どもだと思しますので、対象に向けての働きかけは本当に意味がありますし、大事な取組だと思います。ブックスタート自体が絵本を配る事業という印象でとらえている市民もいますが、会場での働きかけは、一つのきっかけになると思うので、評価できることだと思います。

図書館協議会の評価としては、A評価でよろしいでしょうか。

(各委員同意)

評価をまとめた内容を後でメールにて送ります。

次に入ります。

「基本方針4 未来を担う子どもの読書活動を支援するために、(2)子どもの成長に沿った取組みを進めます、②小学生の読書活動の推進」ですけれども、図書館協議会の評価は分かれています。手書き評価持参の委員はA評価です。

○委員

図書館がB評価としている部分が多いと思いますが、取組については、もう少し頑張ればと思う部分はあります。ただ、取組内容は大変良いことなので、A評価でも構わないと思います。

○副会長

他にB評価とした委員も取組内容の意義を認めています。私自身は、評価しにくいとした理由は、他施設でのおはなし会を開催するにあたり相手方の状況次第なことが入っていること自体、評価の基準にしにくい気がするのが1つです。また、放課後子ども教室は、大体1年前に学校がエントリーするので、今年度実施している学校は、一年前に決めた学校です。地元の小学校では、昨年放課後子ども教室に図書館に来てくださいというの希望していませんでしたが、今年度は希望しているようなので、年度毎、放課後子ども教室での行事内容は違う気がします。放課後子ども教室には司書の方と学生ボランティアと一緒にいると思いますが、おはなし会ボランティアで養成したボランティアを活用するのもありだと思い、意見に書いています。

学童クラブや児童館の小学生向けのおはなし会は、子ども読書活動推進計画の中で児童館の先生も小学生向けのおはなし会があると良いと言っていましたので、そのようなことも企画されると良いと思っています。武蔵野大学の大学生は一生懸命、来てくださっていると思いますけれども、基本はエントリーした方々ですか。

○委員

放課後子ども教室に関しては、文学部の児童文学ゼミに入っている大学生に何日に実施します、ということで参加を募っています。参加する大学生は、図書館の方で準備しているオリエンテーションと事前研修を受けて、おはなし会に参加しています。他施設との調整は難しいとは思いますが、学生への周知期間が短い場合があり、参加が厳しくなる状況があります。難しいことは承知しているのですが、なるべく早めに調整を付けてほしいとは思っています。

○副会長

図書館協議会の評価としては、A評価でよろしいでしょうか。

(各委員同意)

お話しいただいたところも含めて書き直した評価を後ほど、メールにて送らせていただきます。

次に入ります。

「基本方針4 未来を担う子どもの読書活動を支援するために、(2)子どもの成長に沿った取組みを進めます、③ YA (ヤングアダルト) 世代の読書活動の推進」のパスファインダーに係る取組です。全委員がA評価をつけています。委員もA評価で、意見として「子ども電子図書館を100%認識できませんが、新しい図書館の創造のためにA評価とします。」とのことでした。

具体的な取組のパスファインダーが何であるかということですがけれども、調べ方の手引きであり、とても大事な取組だと思いますし、「YA世代にとどまらず、学

生たちの大きな助けになると思う」と書いている方もいて、そのとおりだと思いますが、評価の仕方も難しいとも言えます。

小学生も中学生も授業の中で調べ物をしようとする時、小学生の図書時間以外は、普通の授業だと児童も生徒も皆、GIGAのタブレットで調べていくので、その時に、図書館が作った調べ方の手引きという良いものがあることを学校の先生からも児童、生徒に言っていただき、活用されるくらい、伝わっていると良いと思います。今後について、新たなテーマを探していく旨が図書館ホームページに書いてありましたが、学校図書館司書や司書教諭とのすり合わせは、意味があるので、検討していただければと思います。

次に入ります。

「基本方針4 未来を担う子どもの読書活動を支援するために、(2)子どもの成長に沿った取組みを進めます、③YA(ヤングアダルト)世代の読書活動の推進」の「CATCH」についての取組です。全委員A評価で、手書き評価持参の委員もA評価です。

「CATCH」に関して様々な取組をしているというのが内容になっています。図書館ホームページでの広報や電子図書館で掲載、「図書館だより」での特集など良い取組ですけれども、一方で「CATCH」を知らせるのであれば、紙媒体が重要だと思っています。全中学生に一度に配布することは多額の費用を要するので難しいでしょうし、一つの中学校だけに配布するのも不公平になるので、希望として意見に書いたのですが、紙の現物での配布として、入学時、卒業時とか、9校順番に配るであるとか、知らせるという意図を持って配ることを検討してほしいと思います。知らない中学生が圧倒的に多く、図書館に来なければ紙の現物は手に入らないですし、また、「CATCH」を置いている場所に行かなければ手に入らない現状です。興味を持っている子であれば、新しい号が出ているのかと見てくれると思いますが、興味ない子は知らないままです。中学校図書館(1校)に「YA!YA!ペーパー専用のポストを設置して、反応があったということは、どこの中学校でも潜在的にはいると思うので、他の学校での設置を検討していただくと良いと思います。

○委員

「子ども電子図書館の独自資料の掲載場所は、ページの一番下で見づらいので、バナーがあるページ上部にリンク先を作るなど、より利用しやすい工夫をしてください。」は、評価に載せる必要はなく、図書館の方々に見てもらいたいと思い、書きました。「CATCH」を独自資料のところに載せるということに絡めて、子ども電子図書館のトップページの一番下に独自資料の入口があり、探すのが大変だったためです。

○副会長

私も子ども電子図書館のページの作り方が少し見づらいと同じように感じて、委員の意見をそのまま載せました。パソコンかタブレットやスマートフォンで見え方は違うかもしれませんが、子ども電子図書館は見るだけで疲れてきてしまいます。

○委員

若干、ごちゃごちゃした感は否めないと思います。

○副会長

子ども電子図書館で見てもらいやすいタイトルを選んでいるということは前から聞いていますが、子どもたちに良い感じで目に入れてもらえるのかは、現状では様々な色が沢山出てきて難しい面があります。この本を読みたいと思う子が見つかるのであれば良いのですが、そうではなく、どの本が良いか探している子にとっては、画面の下の下までいかないとならず、かなり厳しいのではないかと感じました。

電子書籍で読書を進めていくということで考えると、読書の入口としては逆に難しいのではないかと思いますし、手に入りやすいものばかりを取り揃えると、ありがちで面白味にかける面は否めないと思います。いろいろな選択肢の中の 하나가電子書籍であることは良いのですが、電子書籍ありきで紙資料を後回しにしてしまうと電子書籍から紙資料へ読書が広がることは難しいのではないのでしょうか。

先日北欧の図書館について研究されている方の話を聞く機会がありました。北欧は、電子書籍に関して先駆的に取り入れてきた流れがありましたが、現在、子どもたちの読書離れが進んでしまい、多額の費用をかけて教科書をデジタル教科書から紙に戻している話がありました。日本もこれからどのようになっていくのかという局面に来ているとの話もありました。西東京市では電子図書館サービスを開始しているので、やはり大事に使っていくべきであると思う一方で、電子書籍の選書基準を持たなければいけないだけでなく、0歳児や小さい子に向けて、どのような方針で取り組んでいくのかというのは、図書館自身が深く考える時に来ていると思います。事業評価では電子図書館のことを殊更取り上げてはませんが、YA向けの取組といった際に、今後、電子書籍をどのように活用していくのか大事になってくると思いました。

事業評価での文章表現の方は、少しトーンを落とした文章として載せることにしてよろしいでしょうか。

(各委員同意)

次にいきます。「基本方針5 地域との協働、行政との連携を構築・向上するために、(1) 地域で活動する市民、団体の活動を支援します、(2) 武蔵野大学との連携・協働」ですが、全員A評価で、委員もA評価で、意見として「図書館の地域協働は難しいことですが、過去に図書館サービスが届かなかった地域では、旧田無市時代には、その地域の家庭で田無子ども家庭文庫が担っていたことを研究して事業計画を立案してください。」とのことでした。

武蔵野大学との連携は、とても大事だと思いますし、双方にメリットがある点に各委員言及していました。

「大学生が選ぶ心にのこる一冊」の企画展示は、とても良かったので、中央図書館だけでなく、各館に巡回展示してほしかった旨を複数の委員が書いていました。他には西東京市のLINEやXへの情報配信に若い人向けの情報を載せられないだろうかとの意見がありました。

○委員

いろいろなイベントをLINEで知った、見たという人が多いので、LINE登録しておけば情報は沢山入ってくるのですが、図書館ホームページと市のホームページと住み分けされていて、片方に掲載すると一方は掲載できない決まりなのか良くわからないのですが、情報配信を検討できないのだろうかと思い書きました。

○図書館長

実際には、図書館には図書館ホームページがあり、イベント情報など掲載していますが、市のホームページにも図書館として情報を掲載できますし、LINEやXについても、図書館から広報プロモーション課に掲載を依頼すれば、載せてもらえます。図書館が独自のXのアカウントを持つことはできませんが、市が持っているXやLINEに実際にイベントなどの掲載を依頼していますが、市民の目に留まらないという状況なので、発信内容が目に留まる書き方も必要だと思います。

○副館長

補足しますと市のXではリツイート機能がないので、情報のキャッチボールはできず、情報を一方通行で送るだけになっています。

○副会長

インタラクションがないということですね。

○委員

インタラクションはなくても良いと思うのですが、情報を流すだけだとしても、NIMICのイベント参加者では、例えば留学生ホームビジットではLINEの情報を見たという声があり、比較的若い人、家庭の方々が参加していただいています。

○副会長

では、図書館協議会の評価欄には、意見として載せることとします。

○委員

「具体的な取組」に文学部との調整と書いてあり、実際に文学部が多いのですが、実は司書課程の学生も、図書館で開催している一日図書館員とバックヤードツアーに参加しています。図書館協議会の評価文の今後のコラボ対象から司書課程は削除しても良いと思います。

○副会長

では、司書課程は文章から外します。

他に意見がなければ、次に最後の「基本方針6 図書館サービスの基盤を維持するために、(1) 職員の専門性の向上を目指します、(2) 司書職員の専門性の向上を目指す取組」に入ります。全員A評価で、委員もA評価で、意見として「研修先として公的機関に囚われずに、ぜひJLA（日本図書館協会）、SLA（学校図書館

協議会)、図書館問題研究会、児童図書館研究会、日本子どもの本研究会、親子読書研究会への職員個人が参加できると良い。」とあります。私も同意見なので、同じようなことを書いています。

(図書館協議会評価読み上げ)

職員各自が図書館での仕事がある中、更に研修に参加するのは難しいとは思いますが、評価に何も意見を入れないのは、どうなのだろうという感があります。

○委員

図書館協議会として、このような意見であると示すことは良いのではないのでしょうか。一方でワークライフバランスや予算の考え方で実現することは難しい現実がありますが、民間主催の研修に参加することは望ましいと書いても良いと思います。

○副会長

では、文章の書き方を考えて、修正します。

研修への参加は、いろいろと難しいことだとは思いますが、自身のスキルアップというのは、仕事には意味があることですし、司書の仕事ということ考えると知識や技能を向上させることは必要だと思います。

他に意見がなければ、図書館協議会の令和6年度事業評価は、B評価が1つ、他は全てA評価で出させていただきます。

事務局に1つ確認ですが、令和6年度事業評価としては、図書館評価が入っている全項目が書いてある資料に対して、評価を書き入れるのでしょうか、今回の資料の評価を書き入れたもので良いのでしょうか。

○副館長

今回の資料のとおり、まとめていただければ大丈夫です。

○副会長

先ほど説明したとおり、11月21日までに文章を修正した資料を各委員に送ります。意見が何もなくても、何も無しの返信メールを11月23日までに送ってください。25日には図書館にまとめた内容を送りますので、図書館側で質問などあれば知らせてもらい修正するという形で12月の教育委員会に報告できるようにします。

会長には、まとまった段階の図書館に送る資料を合わせて送ることとします。

次の議題3、その他です。

事務局から何かありますでしょうか。

○図書館長

その他として、1つあります。

今年度、図書館協議会で行う視察研修は2回ありますので、浦安市立中央図書館の次となる視察の時期と候補先の図書館を幾つか挙げていただければと思います。

先ず時期ですが、可能であれば幾つかの候補日を挙げていただき、相手先に打診する流れになりますが、実際には予算の編成時期もありますので、来年の1月中旬から下旬くらい、2月は上旬の早い時期であれば可能です。

○副会長

各委員いかがでしょうか。

(日程調整)

1月下旬で14日(水)、22日(木)、26日(月)はどうでしょうか。

○図書館長

1月26日は会計年度任用職員、図書館専門員の採用試験日なので、視察日にはできません。他の候補日はありますでしょうか。

○副会長

29日(木)はどうでしょうか。

○図書館長

大丈夫です。では、候補日としては、1月14日(水)、22日(木)、29日(木)で調整します。後は視察先ですけれども、候補に挙げた京橋、北区、曳舟、過去に行ったことがあるか、無いかを調べつつ、後は事務局の方でも検討しますし、候補として、このような図書館を視察したいということがあればメール、電話でお知らせください。

○副会長

できれば早めに日程、視察先を知らせてください。

○図書館長

わかりました。候補日で視察を受け入れてくれる図書館を優先して、日程を組みたいと思います。

○副会長

その他で何か他にありますか。

では、今日の協議会を終わりにしたいと思います。次にお会いするのは、視察の時になり、会議は、年明け2月20日になりますので、よろしくお願いします。